

被災建築物等のアスベストにご注意ください！

災害時には建築物等の倒壊・損傷により、
アスベストを含む建材が露出している可能性があります。

災害時にアスベストが露出・破損している例

アスベストを含む建材は、築年数の古い建築物等の様々な箇所に使用されている可能性があります。

特に、アスベストを含む吹付け材(レベル1建材)や保温材(レベル2建材)等は飛散性が高いため、注意が必要です。

例えば、吹付け材は鉄骨造建築物の柱や梁等の耐火被覆としてよく使用されており、保温材は配管の曲がり部によく使用されています。

被災建築物の実例を、下の写真にてご紹介します。



壁材崩落により露出した吹付け材



破損し落下した吹付け材

アスベストから身を守るために

飛散したアスベストを吸い込むことで健康被害を生じるおそれがあります。

むやみに、**倒壊・損傷した建築物等には近づかない**ことが大切です。

アスベストを含む吹付け材等が露出している場合には、下記へご連絡ください。

【お問合せ先】

広島市環境局環境保全課大気騒音係 082-504-2187 (直通)

倒壊・損傷した建築物等の周囲で作業を行う必要がある場合

アスベストを含む建材は、**戸建住宅**にも使用されているかもしれません。
(ただし、平成18年9月1日以降に着工した建築物は除きます)



倒壊・損傷した建築物等の周囲で作業を行う必要があるときは、次の事項を遵守してください。

遵守事項

- ・ **防じんマスク（粒子捕集効率95%）を着用する**
- ・ 成形版（せっこうボード等レベル3建材）を処分する際には、散水による湿潤化を徹底する
- ・ 破碎や切断など、粉じんを発生させる作業は極力避ける

防じんマスクについて

- ・ 防じんマスク（粒子捕集効率95%）を作業着手前に用意してください。
- ・ **顔に密着させ、正しくマスクを装着してください。**



使い捨て防じんマスク例
(規格 DS1)

マスクのつけ方（N95の例）

1) カップ型

- ① マスクの鼻あてを指のほうにして、ゴムバンドが下にたれるように、カップ状に持ちます。
- ② 鼻あてを上にしてマスクがあごを包むようにかぶせます。
- ③ 上側のゴムバンドを頭頂部近くにかかけます。
- ④ 下側のゴムバンドを首の後ろにかかけます。
- ⑤ 両手で鼻あてを押さえながら、指先で押さえつけるようにして鼻あてを鼻の形に合わせます。
- ⑥ 両手でマスク全体をおおひ、息を強く出し空気漏れていないかユーザーシールチェックを行います。

【画像出所】一般社団法人 職業感染制御研究会ホームページ

<http://jrigoicp.umin.ac.jp>